

「理解」と「継続」が鍵！働きながら合格を掴んだ 独自の学習管理とメンタル維持の極意

公認会計士試験を突破するためには、単に学習時間を確保するだけでなく、質の高い学習戦略と強靭なメンタル管理が不可欠です。

今回は、**お仕事をしながら見事合格を果たされたM・Sさん**にお話を伺いました。

M・Sさんは、ドライバーとして働きながら「耳」を活用した学習を取り入れたり、独自の「付箋管理法」で着実に弱点を克服したりと、工夫に満ちた学習スタイルを確立されています。

また、受験生活における不安との向き合い方や、独自のメンタルコントロール術である「弱火の継続」など、現在学習中の皆さまにとって即座に実践できるヒントが満載です！

合格者紹介

M・S



・経歴：

ドライバーとして働きながら通信講座で学習

・学習スタイル：

運転中も講義を聴き続ける「耳学習」や、間違えた問題を毎日解き直す「付箋管理術」など、独自の工夫で効率的に苦手を克服

・メンタル：

「試験に落ちても生きていける」という精神的な余裕を持ち、無理なく「弱火で継続」することを重視

インタビュー

「付箋」を使った独自の復習管理術

——非常に興味深い学習方法やメンタル管理を実践されていたそうですね。特に気になったのが、「間

違えた問題の意味を理解し、正解するまでほぼ毎日問題を解く」という学習法です。具体的にどのような学習法なのでしょう？

M・S：

まずテキストや問題集を1周します。その際、1ページ目から解き始めて、間違えた問題にはすべて付箋を貼っていきます。そして次の日には、その「付箋がついている問題」から解き始めます。

——間違えた箇所を優先的に潰していくわけですね。

M・S：

はい。付箋の問題を解いて、正解できたら付箋を剥がします。逆に解けなかった場合は、付箋はそのままにしておきます。そして、その日やるべき付箋の問題、つまり前日までに間違えた問題をすべて解き終わったら、付箋がついていない新しいページの学習に進むというサイクルです。これを最後のページまで、付箋が完全になくなるまで繰り返します。

——その方法ですと、学習が進むにつれて間違えた問題、つまり付箋の数がどんどん増えていってしまうのではないかという懸念があります。最初のうちは付箋だらけになってしまい、なかなか新しい範囲に進めないという状況にはなりませんでしたか？

M・S：

おっしゃる通り、初学の状態でこれをやると進まなくなります。ですので、この方法は「ある程度講義を周回し終えていること」が前提です。講義を一通り視聴し、講義に合わせて例題を解き、全体像がざっくりと理解できている状態になった2回目以降の復習としてこの方法を取り入れました。

——基礎的な理解ができている上での、穴を埋めるための復習法ということですね。

M・S：

そうです。自分の中で「理解できていない問題」や「解けない問題」を残したまま先に進むのが嫌だったんです。確実に弱点を潰して残さないために、この方法が一番合っていると考えました。

——実際にやってみて、学習の進捗はいかがでしたか？

M・S：

正直、進みは遅いです。例えば租税法の学習時間を2時間確保しても、最初の1時間半は前日までに溜まった付箋の問題（10個～20個程度）の消化に費やされます。その中で付箋が取れるのは3個くらいだったりします。残りの30分で新しい範囲を少し進めて、またそこで間違えた問題に付箋がつく、という繰り返しです。

でも、これによって「今日は解けない問題がこれくらいあって、そのうちこれだけ解けた」という進捗が目に見えて分かる点が非常に良かったと感じています。

——進みは遅くとも、着実に習熟度は上がっていく実感があったんですね。何回も間違えている問題は、毎日解くことになりますからね。

M・S：

何度も間違える問題は毎日向き合うことになるので、嫌でも習熟度は高まります。

——逆に、何度も同じ問題を短期間で解くことで、「答えを覚えてしまっているから、解けているだけではないか」という不安はありませんでしたか？

M・S：

私の学習スタイルが「理解重視」だったので、そこはあまり気にしていませんでした。1回目に間違えた時に、解説を読んで完全に理解してから翌日に臨むようにしていました。

ですので、2回目に解けた時も「解法を丸暗記したから解けた」のではなく、「理解が腑に落ちているから解けた」という認識で進めていました。

——理解が伴っていれば、答えを覚えていても問題ないということですね。

では、一度付箋を剥がした後は、その問題に触れなくなると思います。理解重視だとしても、触れてから時間が経ってしまうと忘れることもあると思います。このことへの対策はどうされていましたか？

M・S：

全部の付箋が取れたら、また最初からやることもありました。それができるのは数ヶ月後になってしまいます。

ただ、付箋が剥がれるまでに苦手な問題は5回、6回解いています。短期間にそれだけ集中して解いた問題は頭に残っていますし、答練で数ヶ月ぶりに出題されても解くことができたので、忘却についてはあまり心配していませんでした。

——苦手な箇所を集中的に復習することで長期記憶に定着させていたわけですね。中途半端に広く浅くやるよりも、特定の分からないところを徹底的に潰すことに時間をかけるというのは非常に理にかなった戦略だと思います。

働きながらの学習戦略：

スキマ時間と「耳」の活用

——科目別の学習について伺います。計算科目についてはどのような教材を使用されていましたか？

M・S：

計算については論文式試験まで含めれば4科目ありますが、財務会計論はテキストとコンプリート・トレーニング（コントレ）、管理会計論はテキストと短答対策問題集を使用していました。租税法はテキストのみ、経営学は速習講義のテキストと問題集を使っていました。

——コントレを導入されたのはどのタイミングでしたか？

M・S：

2023年の12月に学習を開始して、翌年5月の短答式試験を受けたのですが、そこで不合格になってしまいました。

ただ、財務会計論に関してはその時点で7割取れていました。CPA会計学院に入る前に簿記1級レベルの学習を済ませていたこともあり、基礎力はあったので、プラスアルファの実力をつけるために6月からコントレを導入しました。

——ご自身の実力に合わせて教材を追加されたんですね。理論科目についてはどのように学習されましたか？

M・S：

企業法は、講義を5～6回フルで聴き込みました。特徴的だったのは、テキストベースで復習し直すのではなく、**仕事中に「耳」を使って講義を聴き続けていたこと**です。

私はアルバイトでドライバーをしていたので、運転中は手や目は使えませんが、耳は空いていました。その耳の空いている時間を活用して、ひたすら講義音声を流していました。

——それはすごいですね。仕事中でもずっとインプットしていたんですか？

M・S：

企業法だけでなく、理論科目はすべてそうしていました。**耳で聴いてインプットし、その後で短答対策**

問題集を解く際、講師の言葉が脳内で再生されるような感覚になるまで聴き込みました。

——試験中は、テキストの図表を思い出すというよりは、講師の音声を思い出して解くような感覚でしょうか？

M・S：

図表が浮かぶこともありましたが、どちらかと言えば「あの時、音声でこう言っていたな」「この問題は短答問題集で間違えたな」という記憶を頼りに解いていました。コンパクトサマリー（コンサマ）などの表を視覚的に思い出すことはあまりなかったです。

「理解」対「暗記」：CPAの理念との共鳴

——学習全体を通して、「理解」と「暗記」のバランスでは何を意識されていましたか？

M・S：

私はCPA会計学院が掲げている「理解重視」の方針を全面的に支持していました。受験生には安易に暗記に走ってほしくないと思っています。

——それはどうしてでしょうか？

M・S：

受験生全体が暗記に走ってしまうと、試験そのものが「膨大な量を暗記した人が勝つ」ゲームになってしまいます。そうなると、暗記に時間をかけられる人だけが有利になり、本質的な能力を問う試験からズレてしまう気がするんです。

CPAのように「まずは理解しよう」と指導してくれるのは非常に良いことだと思いますし、今後もその方針でやっていってほしいです。

——CPAは、単に試験に通るためだけの暗記ではなく、会計士としての長い人生において自走できる人材を育てたいと考えています。その点に共感していただけ嬉しいです。

M・S：

全く同感です。理解していれば、忘れにくいですし、応用も利きます。

学習計画と模試の分析について

——日々の学習計画やスケジュール管理はどのように行っていましたか？

M・S：

細かい計画は立てていませんでした。論文期では、科目ごとの時間配分だけはだまかに決めていたのですが、「この日にどこまでやる」といった詳細な計画は立てていませんでした。

——かなり柔軟に進められていたんですね。答練や模試の結果の分析はどのように行っていましたか？

M・S：

分析もシンプルでした。点数が悪かった原因を突き詰めていくと、結局は「勉強時間を投入していなかった」という結論になることが多かったんです。例えば、監査論が苦手な点数が伸びなかった時は、単純に監査論に割く時間が少なかったことが原因だと気づきました。このため、対策としては「監査論の勉強時間を増やす」というシンプルなものになります。

9											
10		模試1	直1	直2	直3	模試2	AV	σ	MAX	Min	目標
11	財務	54.8	57.1	54.4	55.5	55.0	54.8	1.2	57.1	52.0	56
12	管理	61.7	55.1	61.0	59.1	51.8	58.4	3.0	62.0	51.8	56
13	監査	49.2	42.8	46.2	50.2	56.3	50.7	3.3	59.1	42.8	52
14	企業	41.3	58.6	47.6	58.7	63.4	53.9	8.6	63.4	41.3	56
15	租税	64.1	51.6	54.0	45.0	55.0	53.9	7.9	64.1	45.0	56
16	経営	54.3	50.3	44.7	52.0	57.1	51.7	4.1	57.1	44.7	54
17	全体	54.3	53.2	51.7	53.7	56.2	54.0	1.1	60.0	47.1	55.1
18											
19	会計学	57.07	56.45	56.60	56.70	53.94	56.02	1.2			
20											

(↑論文直前答練・模試の結果一覧をスプレッドシートで管理し、投入時間の参考としていた)

——複雑に考えすぎず、投入時間と成果の相関関係を見て調整されていたんですね。

M・S：

あとは「周りが正解できている問題（Aランク、Bランク）を自分が落としていないか」を確認しました。監査論で、理解だけでは太刀打ちできない部分、周りが取れている部分は「ここは諦めて暗記しよう」と割り切ることもありました。自分がコントロールできるのは「時間配分」と「基礎の徹底」だと思っていたので、ざっくりした分析で済ませていました。

メンタル管理：

「弱火で継続」と「逃げ道」の重要性

—アンケートで非常にユニークだと思ったのが、プレッシャーへの対処法として「公認会計士試験に受からなくても食っていける自信がある状態を維持した」という点です。こちらについて詳しく教えてくださいいただけますか？

M・S：

私はドライバーのアルバイトをしていました。その経験から、「最悪、試験に落ちてもドライバーとして働けば生活していける」という確信があったんです。

その「保険」があったおかげで、過度な不安に襲われることなく、純粋に楽しく勉強に取り組むことができました。

—「試験に落ちたら人生終わりだ」と追い詰められるのではなく、ある種の心の余裕を持っていたことがプラスに働いたんですね。

M・S：

その通りです。何かで生計を立てられるという自信がないまま、一か八かで試験に臨むのは精神的にかなり辛いと思いますし、人生全体で見てもリスクが高い賭けになってしまいます。それよりは、「自分はこちらでも生きていける」という基盤を持った上で、「それでも会計士になりたいから勉強する」という前向きなモチベーションで取り組む方が、結果的に楽しく勉強できるんじゃないかと思います。

—すべてが試験結果に左右される状態だと、勉強自体が苦痛になり、モチベーションを維持するのも難しくなりますよね。

M・S：

モチベーションの維持という意味では、「熱量」のコントロールも意識していました。最初からフルスロットルで飛ばしすぎないことが大事だと思っています。

—具体的にはどのようなイメージでしょうか？

M・S：

料理の火加減に例えると、CPAに入会した瞬間から「強火」で1日10時間勉強する人は、途中で燃え尽きてしまって受からないことが多い気がします。それよりは、最初は1日1~2時間でもいいから「弱火」でコトコト煮込むように継続する期間が1年くらいあっていい。そして、どこかのタイミングで少しずつ「中火」にして、直前期の1ヶ月くらいだけ「強火（100度）」にする。

最初からずっと100度で走り続けられるとは思わない方がいいですし、それを目指すのも違うと思います。

—常に90度や100度を維持するのは至難の業ですからね。70~80度程度の熱量を淡々と維持すること、つまり「継続」こそが一番重要ということですね。

M・S：

本当にそう思います。無理のない範囲で続けることが合格への近道だと信じていました。

孤独との戦い：

学習仲間とコミュニティの活用

—通信生は特に「孤独」を感じやすい環境にあると思います。M・Sさんは学習仲間やコミュニティについてどうお考えでしたか？

M・S：

論文期に、講師が主催する交流会に参加して学習仲間ができました。ただ、もっと早い段階（短答期）から積極的にコミュニティに参加しておけばよかったという反省もあります。

—それはなぜでしょうか？

M・S：

会計士試験は「相対試験」です。周りの受験生がどのレベルにいるのかわからないと、方向性がズレた勉強をしてしまったり、過剰にやりすぎてしまったりする恐れがあります。

私の場合、短答式試験はボーダーラインを大きく超えて合格できたのですが、今思うと「もう少し力を抜いても良かったのではないか」「効率よくできたのではないか」と感じる部分があります。

早い段階で仲間や講師と相談し、自分の立ち位置を把握していれば、より効率的に学習を進められたと思います。

—自分の実力を客観視するためにも、他者との関わりは重要ですね。一方で、学習仲間がいることのデメリットを感じたことはありましたか？

M・S：

交流会で出会った仲間とオンラインで定期的に集まっていたのですが、時には仲間が模試の結果で落ち込んでいて、暗い顔をしていることもありました。

相談には乗るのですが、そうすると自分もそのネガティブな空気に引っ張られてしまい、翌日の勉強の気分が乗らなくなってしまうことがありました。

——周囲の感情に影響を受けてしまうリスクですね。

M・S：

なので、直前期の1ヶ月間は交流を断って、自分の世界に集中するようにしました。**仲間がいることは心強いです**が、**付き合い方や距離感は時期によって調整する必要がある**と感じました。

——非常にリアルな意見です。では、ご家族やご友人など、受験とは関係ない周囲の方々のサポートはいかがでしたか？

M・S：

それは非常に大きかったです。高校時代の友人など、受験に全く関係ない人たちが応援してくれることは凄く力になりました。

受験生だからといって友人との交流を全て断つ必要はないと思っています。会計士になった後もコミュニケーション能力は必要ですし、遊びや飲み会をすべて断って勉強だけしていたら、受かった後に大変なことになるかもしれません。

周囲が「応援したくなるような雰囲気」を自分から出すことで、結果的に勉強しやすい環境が作れるのではないでしょうか。

——CPA内のつながりだけでなく、CPA外の間関係も大切にすることが、メンタルの安定や将来のキャリアにも繋がるということですね。

受験生へのメッセージ

——最後に受講生に向けてメッセージをお願いします。

M・S：

合格後、監査法人で働き始めて2ヶ月ほど経ちますが、仕事はとても楽しいですし、報酬もしっかりいただける魅力的な資格だと改めて感じています。**受験勉強は大変ですが、人生のすべてを犠牲にするようなものではありません**。勉強自体も、**自分の成長を楽しむくらいの気持ちで取り組んでほしい**です。「楽しんでやる」ことこそが、合格への一番の近道だと思います。

まとめ

M・Sさんとの対談から見てきた、合格のための重要なポイントは以下の通りです。

1. 「付箋」で進捗を可視化する：

間違えた問題を徹底的に繰り返すことで、確実な実力アップを図る

2. スキマ時間の徹底活用：

移動中や作業中に講義音声を聴き込み、耳からのインプットで記憶を定着させる

3. 理解重視の学習：

暗記に頼らず「なぜそうなるのか」を理解することで、応用力と長期記憶を養う

4. 「弱火」で継続する：

最初から飛ばしすぎず、一定の熱量を長く維持することで燃え尽き症候群を防ぐ

5. 精神的な安全網を持つ：

「試験がダメでも生きていける」という自信を持つことで、過度なプレッシャーから解放される

6. 孤独になりすぎない：

相対的な立ち位置を知るために学習仲間を作る一方で、直前期は自分のペースを守るバランス感覚を持つ

これから会計士を目指す皆さん、そして現在学習中の皆さん。M・Sさんが実践されたように、自分に合った工夫を取り入れ、時には肩の力を抜きながら、「学ぶ楽しさ」を忘れずに日々の学習に取り組んでみてください。

皆さまの努力が実を結び、合格という切符を手にすることを心より応援しています！！